

第4回月刊バスケットボールカップU-15に協賛

人気沸騰のバスケットボール大会で、おもちの素晴らしさをアピール！

八村塁選手のNBAドラフト1巡目指名という快挙もあり、バスケットボール人気はさらに加熱して、国内での競技人口も増え続けています。全国餅工業協同組合では、2019(令和元年)年8月18日(日)から20日(火)にALSOK ぐんま総合スポーツセンター(群馬県前橋市)で開催された「第4回月刊バスケットボールカップU-15」に協賛。多くの選手たちと応援に訪れたご家族や関係者の皆様へ向けて、スポーツに親和性の高い包装餅のプロモーション活動を行いました。



大会には15歳以下(中学生)の男女各32チームが日本各地から参加。それぞれ8ブロックに分かれて予選リーグを戦い、その後決勝トーナメントで優勝が争われます。

本大会では「バスケットボールを通じて”親子の絆”を深める事が目的」と位置づけられており、各試合のコートサイドに家族用の応援席が特別に設けられています。選手たちがプレーする間近で家族が必死で声援を送り、共に戦い、喜び、涙する…そんな感動的なシーンが随所で見られました。

全餅工では、出場全64チームの選手へ向けて、切り餅パックやリーフレット、餅カーポローディング漫画チラシ、ティッシュなどを詰め合わせた「切り餅セット(各チーム20セット)」を大会事務局ブースを通じて配布。

また試合会場の観客席へ続くメインエントランス付近に「おもち大明神」を設置した全餅エブースを構え、おみくじに参加された方々にもれなく切り餅セットの配布を行いました。

特に開会式終了直後には、全餅エブースへ大勢の方々が詰めかけ、長蛇の列が出来るほどの盛況ぶりでした。



■選手たちの成長をおもちパワーでサポート！

中学生とは言っても、選手の体格は既に大人顔負けで、今大会出場チームの男子選手の最高身長は193cm。女子選手の最高は180cmです。このように立派な身体に育てて、それを維持するために、周囲の大人たちもいろいろ苦労しているそうです。

指導者の一人は「バスケットをやる子どもたちは背が高くなりたいという思いがあるので、普段から動物性たんぱく質を摂ることには積極的。でも、体が大きくなる分だけ、代謝量も増えるのでスタミナ切れしてしまうことが多いんです」と話してくれました。

28m×15mのコートを休むことなく駆け回るバスケットは、消費カロリーが非常に多いスポーツであることでも知られています。選手たちの活動エネルギー源として、また大切な試合に向けたカーボローディングを実践する上でもお餅の活用がオススメであることを、掲示パネルや餅カーボ漫画などを使ってご紹介しました。

大会は激戦が繰り広げられ、男子は宇都宮ブルックス(栃木県)、女子はHANABUSA FALCONS(埼玉)がそれぞれ初優勝を果たしました。

■夢はNEXT of TOKYO パリ、そしてロサンゼルスへ

いよいよ2020年まであと一年。けれども彼らの夢はそこで終わることなく、もっと先へと続きます。

2024年にはフランスのパリ、そして2028年には米国のロサンゼルスで行われるスポーツの祭典。そこで華々しい活躍をみせてくれるニッポンの若者たちをサポートするため、さらにお餅をPRしていきます。



全国餅工業協同組合では、このようなスポーツ協賛活動等を通して、包装餅がスポーツ前後の栄養補給などに有用な食べ物であることを広めるとともに、ニッポンの若者の未来を全力で応援していきます。